

中耳炎

中耳炎とは、鼓膜の奥(中耳腔)に

何らかの原因によって炎症がおこることを言います。

今回は中耳炎の中で、代表的な病気について説明します。

1) 急性中耳炎

鼻と耳をつないでいる管(耳管:つばをのむと開くのがわかります)を經由して中耳腔へ細菌またはウイルスが侵入すると、中耳腔で繁殖し、痛みや耳漏(耳だれ)をおこします。

子供はその耳管が、太く、短く、水平なために感染が起こりやすくなります。

鼓膜は赤く、腫れて膨張し、痛みを伴います。

風邪をひいて数日後に耳痛を生じたときには、急性中耳炎をおこしている可能性が高いため、はやめに耳鼻科開業医を受診してください。

2) 滲出性中耳炎

中耳腔に浸出液がたまり、難聴や耳閉感を自覚します。

耳管のはたらきが悪くなる、または他の病気で耳管が塞がってしまうことによりおこると考えられます。

そのため最初は鼻や耳管の治療が行われます。

そのような治療で治らない場合は、鼓膜切開や鼓膜にチューブを入れる治療を行うこともあります。

適切な治療をおこなえば治ることも多いのですが、

放置すると真珠腫性中耳炎などに進行することもあるので注意してください。

3)慢性中耳炎

重症の急性中耳炎後、または中耳炎を繰り返すことで、鼓膜に穿孔が生じることを慢性中耳炎と言います。

この場合鼓膜という外からのバリアがなくなるため、

鼻から細菌が入るだけでなく、外耳道(耳の穴)からも中耳腔へ細菌が入りやすくなります。

したがって、頻回の耳漏を生じ、放置すると難聴が進みます。

現在は手術で鼓膜を作ることが可能ですので、

手術治療をおこなっている病院に相談しましょう。

当科では鼓膜の穴(穿孔)の大きさに合わせて、

日帰りもしくは短期入院の手術を行っています。

4) 真珠腫性中耳炎

これは聞きなれない言葉かと思いますが、中耳炎の中では、最も注意が必要な病気です。他の中耳炎と違い、今なお原因は解明されていません。

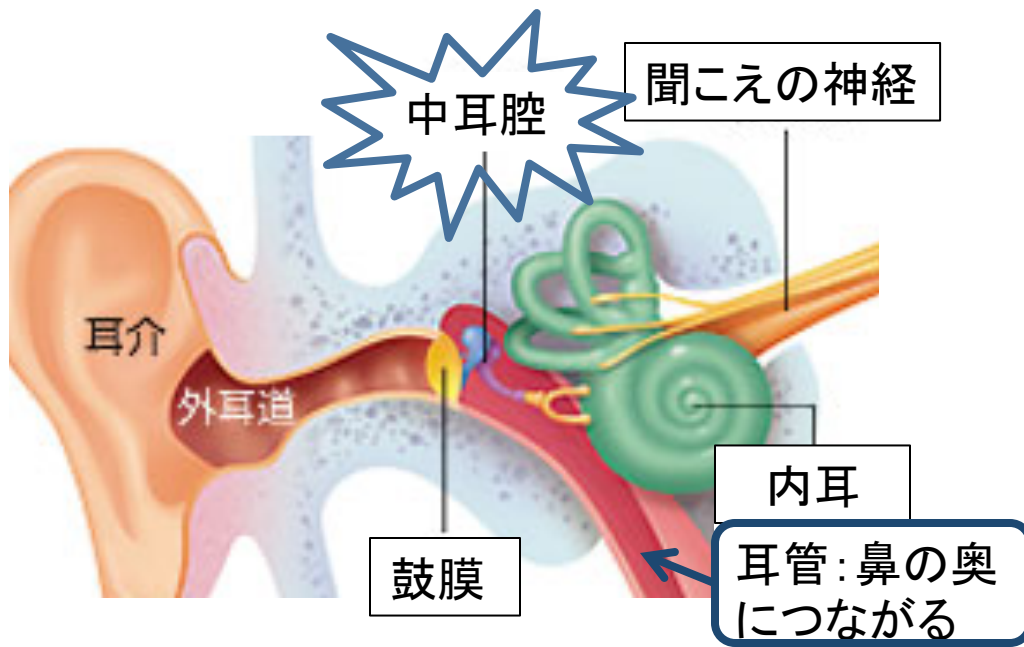
周囲の骨を溶かして(骨破壊)炎症が進展するため、さまざまな症状が出現します。難聴、耳漏だけでなく、深部に進行するとめまい、顔面神経麻痺や髄膜炎など重大な症状を起こすことがあります。

この病気は残念ながらお薬では治らず、多くは手術が必要です。病気の進行度に合わせて入院期間・手術範囲が決まりますので、早期発見が大切です。真珠腫性中耳炎が疑われた場合は、早めに手術が可能な病院に相談してください。

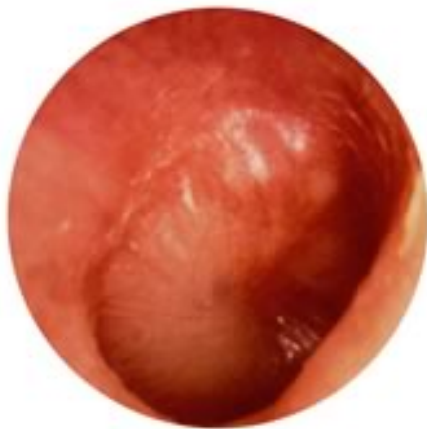
最後に

以上代表的な中耳炎について解説しましたが、
それ以外の特殊な中耳炎もあります。

それぞれの病気に適した治療が大切ですので、
耳鼻科医にまずはよく相談してください。



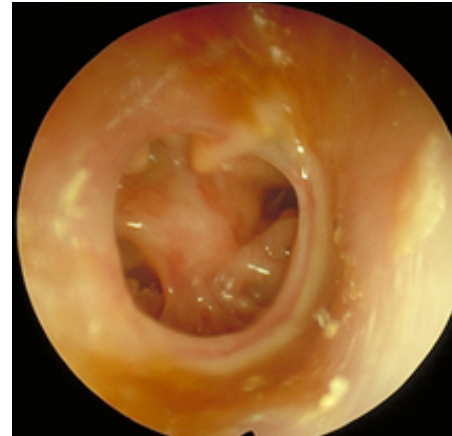
正常鼓膜(右)



急性中耳炎



滲出性中耳炎



慢性中耳炎



真珠腫性中耳炎